2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
環境生態系分野	国際保健・生態疫学特論Ⅰ・Ⅲ	依田 健志

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

（1）基礎医学, 社会医学, 臨床医学を包含した学際的知識を身につける。
（2）国際保健で頻用される研究デザイン（横断、コホート、症例対照、介入研究、準実験、サーベイランス、アウトブレイク調査等）の適用場面と限界を説明できる。
（3）骨粗鬆症, サルコペニアなどの疫学を理解する。
（4）国際比較・多施設研究や保健システムデータ（DHS/MICS 等の調査、行政統計、施設データ、レジストリ等）を念頭に、データの質と一般化可能性を評価できる。

授業到達目標

（1）バイアス、交絡、効果修飾、測定誤差、欠測、クラスター構造など、国際保健研究で起こりやすい課題を踏まえて、解析計画と解釈を立てられる。
（2）開発途上国を中心とした地域における健康問題を把握し, 解決に向けた対策を立てることができる。
（3）学位論文を仕上げるための方法論を身につける。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	奇数週	火	17:00-19:00	依田 健志	講義	[抄読会]	複数教室合同の抄読会や研究検討会を充てる。英文文献の紹介を原則とする。 [場所:本館棟 6 階第 12 カンファレンス室]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1） 1年間※で 30 時間出席し, 科目責任者から履修手帳に出席印をもらい, 提出する。
（2） 1年間※で, 論文紹介または症例発表を 2 回行い, その要約 2 編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1） 1年間※で 15 時間出席し, 科目責任者から履修手帳に出席印をもらい, 提出する。
（2） 1年間※で, 論文紹介または症例発表を 2 回行い, その要約 2 編を提出する。
ただし, 特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※1～3年生は2月末まで, 4年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

紹介論文の要約について, 添削して返却する。

教科書

ISBN-9780199693474, Oxford Textbook of Public Health (5th edition), Roger Detels et al., Oxford University Press, 2011

参考書

ISBN-978-4895924475, 医学統計データを読む , 澤　智博（監訳）, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2006
ISBN-9784903803210, 臨床研究の道標 , 福原 俊一, 健康医療評価研究機構, 2013
ISBN-9784260035873, 論文を正しく読むのはけっこう難しい, 植田 真一郎, 医学書院, 2018

準備学習（予習・復習等）

（1）疫学的研究手法を予習しておくこと。
（2）骨代謝に関連する文献･論文を次回までに読んでおくこと。
（3）実験に活用できる手法は復習して整理しておくこと。
およそ2時間の準備学習が必要。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題を探求するための科学的思考法を習得するとともに, 他分野の研究者とも交流し, 幅広く知識を吸収する。

注意事項・メッセージ

文献紹介だけでなく, 研究に関する手技, 疑問, 方向性など何でも相談してください。